チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2008年8月NO.13

SMILES

http://www.childfund.or.jp

スリランカ特別号

シリーズ“食べる” 2

お祭り“ウェサック(Vesak)”で振る舞われる食事。
野菜と肉のカレーは日本のカレーライスと違い、カレー味の煮物といった感じです。
彩りを添えるのは、苦い野菜の和え物とサンボル(付け合わせ)。スリランカの主食は米。
ご飯とカレーを手でぐちゃぐちゃに混ぜて食べるのも絶品です。

＊ウェサック：スリランカの仏教徒にとって一年で最大のお祭り。5月の満月の日に行われる。

写真：コロンボ郊外のケラニヤ（スリランカ）にて

ChildFund Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集 スリランカのスポンサーシップ・プログラム

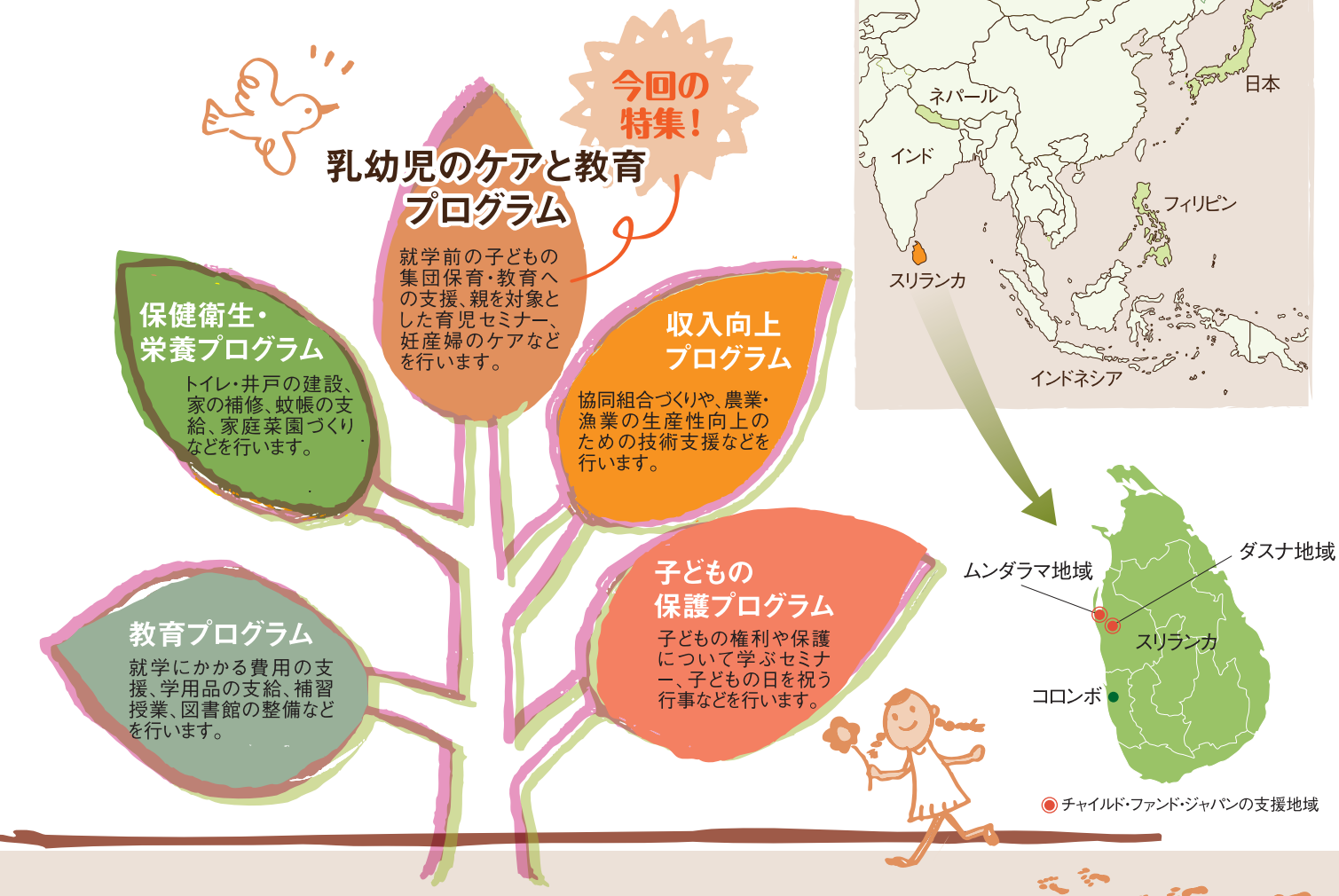
特　集

スリランカのスポンサーシップ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2006年11月からCCF（キリスト教児童基金:米国の海外協力団体）をパートナー団体としてスリランカの子どもたちを支援しています。その中には就学年齢に満たないチャイルドが多くいます。「スポンサーシップって子どもを学校に通わせる支援じゃないの？」「2歳、3歳の幼いチャイルドたちってどんな支援を受けているんだろう？」そんな素朴な疑問はありませんか？ 今年の5月に出張した支援者サービスグループの石井が、スリランカのスポンサーシップ・プログラムをご紹介します。

スリランカのスポンサーシップ・プログラムの概要

子ども、家族、地域を対象に以下の5つのプログラムを実施しています。
今回は「乳幼児のケアと教育」プログラムを特集します。



「乳幼児のケアと教育」プログラムとは

☆なぜ、乳幼児のケアが大切なの？

0歳から5歳までの乳幼児期に子どもの脳は急速に発達します。この時期は子どもの身体的・知的・情緒的な発達に大きな影響を与えるため、健康、栄養、遊びと学習、他者との交わりなどの面で、適切な環境のもとで充分なケアを受けることが子どもにとって必要です。親にとっても、乳幼児期から子どもの成長や教育への意識を高めることは、その後も子どもの教育に積極的に取り組むことにつながります。

☆どんな支援をしているの？

スリランカのプログラムでは、0歳から5歳の乳幼児とその保護者を対象にした『乳幼児のケアと教育』(ECCD:Early Childhood Care and Development)プログラムに力を入れています。このプログラムの2つの柱は、

① 集団保育・教育の場であるプレスクールへの支援
② 家庭での育児への支援

それでは実際に、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援するプログラムの現場を訪ねてみましょう！

・プログラム －乳幼児のケアと教育－

乳幼児のケアと教育プログラムの柱 ① プレスクール*への支援

*プレスクール:就学前の子どもを対象とした保育・教育機関

支援によって運営されているプレスクール

海風が吹き抜けるプレスクール

ここは最大都市コロンボから北へ120kmのプッタラム県にあるムンダラマ・チャイルド・デベロップメント・プロジェクト。インド洋に面した漁村で、多くのチャイルドの家庭が漁で生計を立てています。

3歳から5歳の子ども50人が通うこのプレスクールには、色とりどりの楽しそうな遊具があり、子どもたちの歓声が響き渡ります。また、毎日新鮮なミルクが支給されており、子どもたちが健康でのびのびと学び、遊ぶことができる空間です。

地域に遊具のある公園はないため、貴重な遊び場です。

思い思いに色を塗ることで創造性を育みます。

このプレスクールでは、運営費用の一部として親が毎月200ルピー（1ルピー=約1円）を支払います。チャイルドの家庭にとって、この金額は負担にならないのでしょうか？地域のスタッフは話します。「全てのサービスを無料で提供してしまうと、親や地域住民の中で、出来上がった設備やサービスを自分たちで維持・管理しようというモチベーションが起こりません。200ルピーという金額は何が何でも一律にその額を、ということではく、親自身もできる範囲で何らかの『貢献』をする、それこそが大切なんですよ。」親が乳幼児の教育の大切さを理解してこそ可能となる、こうした貢献。親たちの努力は続きます。

「あったかいミルク、美味しいな！」

4歳のセオミニちゃん。
母親（左）は「娘は以前体重が標準以下で病気にも罹りやすかったけれどミルクのおかげで今ではとても健康です」と笑顔。

プレスクールがないと困る！

ムンダラマ地域で次に訪れたプレスクールでは、驚いたことに、屋根にぽっかり大きな穴があいていました。雨風すらしのげないこのプレスクールは今年1月から活動できない状態が続いています。通っていたのは25人のチャイルド。中では、親たちが所狭しと座り、新しい校舎を建てるための話し合いをしていました。

「今は1.5km離れた他の村のプレスクールへ通わせているが、子どもが歩いて通うには危険。やはりこの村に一つプレスクールがほしい。」親たちは訴えます。スタッフは「セメント、煉瓦などの建築資材を支給するので、皆さんの分担として、労働力を提供してほしい」と提案しました。すると、石工の仕事をする一人の父親が立ち上がりました。「私が建設します！」一日でも早くこの村にプレスクールが戻ってきてほしい…子ども、親、住民、みんなの願いです。

新しい校舎が必要だと話す親たち。

「プレスクール設置の最低基準」

乳幼児期のケアを重視するスリランカの教育政策の中で、この20年間に民間のプレスクールが急増しましたが、設備、教師の能力不足など質の面で多くの課題があります。そのため2006年、政府は「プレスクール設置の最低基準」を定めました。基準は設備の安全性、子どもの健康と栄養、カリキュラム、管理運営、親の参加、教師の研修など多岐にわたります。支援地域でも当初はこの基準を満たしていないプレスクールが多かったといいます。支援により、子どもの成長に適した環境が整い、栄養状態が改善し、親が積極的に運営に参加するなど、大きく改善している様子が窺えました。

「私が建設します！」立ち上がった父親

乳幼児のケアと教育プログラムの柱 ② 家庭での育児への支援

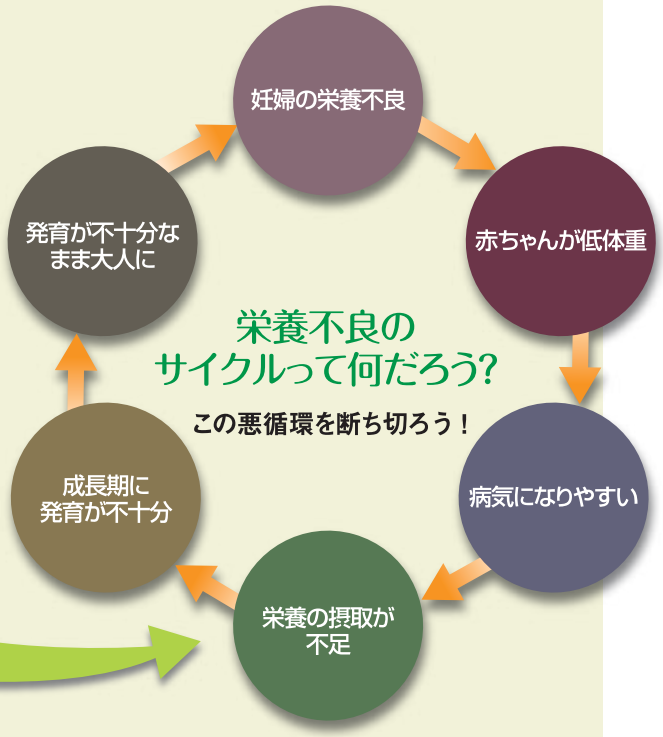
栄養セミナーはお母さんの出番！

乳幼児のケアのもう一つの柱は、「家庭での育児への支援」。その取り組みの一つが、母親向けの「地域栄養プログラム」です。ムンダラマ地域では5歳未満の子どもの4人に1人が栄養不良。家庭での親の役割は重大です。しかし、地域では貧困のため小学校すら卒業できなかった親、中には字が読めない親もいるなど、栄養や病気に関する知識が少ないのが現状です。子どもの栄養を改善したい!そのための知識や技術を伝えようと、地域栄養プログラムでは、母親を対象に栄養セミナーや調理・家庭菜園の実習を毎月1～2回行っています。

熱気あふれる会場では、0歳から5歳の子どもを持つ母親20人が栄養セミナーに参加しています。今日のテーマは「栄養不良」。栄養不良の原因、各栄養素の役割とそれらを含む食品をバランス良く食べることなどを学びます。

講師は、地域から選出された母親のリーダーです。自らリーダーに立候補し、トレーニングを受けました。その成果を今度は他の母親たちに伝えようと、自信に満ちた表情で講義を進めます。

セミナーではゲームを取り入れて、楽しみながら学び、大切なポイントが記憶に残りやすいように工夫されています。



最後に参加者全員が輪になり、感想や意見を分かち合います。お母さんたちの生の声を聞いてみました。

Q 栄養についてどんな問題がありますか?

A 母親が栄養不良なので子どもも栄養不良になりがちです。出生時の体重が2kgに満たない赤ちゃんも多いんです。

Q 地域栄養プログラムをとおしてどんなことを学びましたか?

A 新鮮なミルクを子どもに飲ませるようになったわ。以前は粉ミルクばかりだったの。

A 伝統的な慣習であっても栄養の面で正しくないことは改めました。例えば初乳は濃すぎて良くないと言われていたので捨てていたんです。でもこのセミナーで初乳は栄養が豊富だと学び、与えるようになりました。

Q 実際に料理をするときに、工夫するようになったことは?

A 野菜は全て火を通して食べていたのですが、栄養素が損なわれないよう生でも食べるようになりました。

家庭菜園でかぼちゃ、オクラ、なす、ゴーヤなどを育てています。貧しい家庭では充分に栄養のある食事ができません。野菜の種を配り家庭菜園づくりを指導することによって、野菜を買わなくても、自分たちで作った安全で栄養たっぷりの野菜を食べることができます。

支給された野菜の種

乳幼児期だからこそ、大切な支援

0歳から5歳の乳幼児期は、子どもの成長と発達の基礎となる大切な時期。しかし、支援地域で乳幼児期の重要性はまだ充分に認識されているとは言えません。例えばプレスクールについて「就学直前の数ヵ月間だけ通わせて読み書きを習わせる場所」「短時間子どもを預かってくれる場所」というイメージしか持っていない親もいます。

スリランカの「乳幼児のケアと教育プログラム」では、乳幼児期を就学への単なる準備期間として捉えるのではなく、乳幼児期にこそ心身の発達を促す支援が必要であると考えています。子どもが健やかに育つこと、育児を担う親たちが乳幼児期の大切さを理解し、参加意識を高め、プレスクールと家庭の両面で積極的に子どものケアと教育を担っていくことが、このプログラムの描くゴールです。

スリランカを訪ねて、

～代筆のお手紙に込められた思い～

「スリランカのチャイルドからの手紙は、どうしてこんなに代筆が多いんだろう」

これは、2008年1月にスリランカを担当し始めてから抱いた、私の率直な感想でした。幼いチャイルド本人に代わって両親が書いた手紙だけでなく、チャイルドのおじさんやおばさんが書いた手紙も見受けられます。チャイルド自身が書いたフィリピンの手紙に馴染んでいたせいか、スリランカの手紙からは、チャイルドの顔が見えにくいもどかしさを感じていました。

スリランカでプレスクールに通う一人のチャイルドの家庭を訪ねました。チャイルドの両親と話していると、近くに住むという伯母さんが現れました。チャイルドの母親のお姉さんである彼女は、「妹は小学校2年生、妹の夫は4年生までしか教育を受けていないので、なかなか手紙を書けません。だから、私が代わりにスポンサーさんに手紙を書いています。と言っても、私自身も6年生までしか学校に行っていないんですよ。」と、話してくれました。甥っ子がスポンサーシップの支援を受けられることは伯母さんにとっても喜びであることが、はにかんだ人なつこい笑顔から伝わってきます。

そう言えば、地域の親たちがつくる協同組合のミーティングにも、そのチャイルドの母親と一緒に出席する伯母さんの姿があったことを思い出しました。少し緊張した面持ちで座っているチャイルドの母親を気遣うように、伯母さんも話し合いに参加していました。スポンサーシップの支援によって新たな一歩を踏み出すことができた妹の一家。変化に向けたその大切な一歩を、何とか支えたいという伯母さんの思いを理解することができました。

スポンサーシップによって得られた機会を活かして、今の暮らしを少しでも良くしたいと決意した妹一家を後押ししたい。そんな思いから、伯母さんは苦労しながら手紙を代筆していたのです。家族のみならず親戚ぐるみで支えられているスポンサーシップ。教育を充分に受けることができなかった親や親戚が書く手紙の内容は、あまりバラエティーに富んだものではないかもしれません。しかし代筆の手紙には、チャイルドを取り巻く様々な人が抱く希望、幼いチャイルドの幸せを願う気持ち、スポンサーへの感謝…、そんなたくさんの伝えたい思いがあふれていると感じられるようになりました。

支援者サービスグループ　石井啓子

お祭り"ウェサック"の日。人々にならい、白い服でお寺に行ってみました。

スリランカの子どもたちとともに（2008年2月）

CCF会長より、ご支援くださる皆様へ

チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーはじめ支援者の皆様に、キリスト教児童基金（Christian Children's Fund：CCF）の会長としてご挨拶と感謝を申しあげます。

チャイルド・ファンド・ジャパンとキリスト教児童基金（CCF）は、他の10の加盟団体と共にチャイルド・ファンド・アライアンスという国際的なネットワークを構成しています。貧しさに苦しむ子どもたちを支援するという目標を共有する各加盟団体は、世界各地で子どもたちの支援活動を展開しています。

私どもが1985年より支援活動を行うスリランカでは、2006年より、チャイルド・ファンド・ジャパンと、スポンサーシップを通じた協同支援事業を開始、今では400名を超える日本のスポンサーの皆様がスリランカの子どもたち、彼らの家族、そして地域の人びとを支援してくださっています。

第二次世界大戦後、CCFは26年にわたってチャイルド・ファンド・ジャパンの前身であるCCWAを通して日本の子どもたち、およそ9万人を支援いたしました。そのチャイルド・ファンド・ジャパンと協力して、今、スリランカの子どもたちを支援することができることはたいへん意義深いものがあります。

お届けする機関紙、スマイルズは、去る5月、スリランカを事業視察のため訪れたチャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフが執筆を担当していると聞いています。チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーをはじめ支援者の皆様が、スリランカとそこで行われている事業について理解を深めてくださることを願っています。

CCF（キリスト教児童基金）会長
Anne Lynam Goddard
（アン ライナム ゴダール）

インフォメーション コーナー

皆様へのお願い ー追加募金についてー

「台風緊急募金」

5月と6月に2つの台風がフィリピンを襲い、死者1,000名を越える大きな被害が出ました。センター41のあるパナイ島イロイロ州では豪雨により鉄砲水が発生、高さ12メートルを越える洪水が家々を飲み込みました。今回の水害は、パナイ島全島で60年来の大規模なものでした。さらに、被災者たちは台風の直接の被害だけでなく、最近の物価の高騰により主食の米を買うことも困難になり、二重に苦しんでいます。（センター41からの報告）

チャイルド・ファンド・ジャパンは、3つの協力センター（センター21,41,42）で家屋の修繕、緊急食糧配布のため、300万円の緊急支援募金を実施しています。多くの方々にご協力いただきましたが、8月8日現在、募金額は465,013円（目標達成率15.5%）です。どうぞ被災したチャイルド、家族へ、暖かいご支援をお願いいたします。

強風で全壊した家屋（センター21）

米が高くて買えず、わずかな食糧を食べる子ども（センター21）

「フィリピン パラワン族 生活改善プロジェクトキャンペーン」

8月8日までに計662口、総額3,529,620円のご寄附が寄せられました。皆様からのご支援に心より感謝申しあげます。しかしながら、目標の800万円の達成にはまだまだご支援が必要です。パラワン族の子どもたち、人々をマラリアの脅威から守るため、引き続きご協力をお願いいたします。

募金にご協力くださる方は、
募金グループにご連絡ください。
電話:03-3399-8123
メール:childfund@childfund.or.jp

おしらせ 東京事務所のイベント『オープンハウス』にお越しください！

3年ぶりに開催する『オープンハウス』では、ご支援がどのように活かされているか、最新の活動地域の様子をビデオでご報告します。
ご家族やお友だちを誘って、お気軽にお立ち寄りください!

プログラム ビデオ上映／チャイルドのご飯試食など

日時 ①11月7日（金）18:30-20:30
②11月8日（土）10:00-12:00　③同13:30-15:30
※プログラムは3回とも同じ内容です。申し込みは必要ございませんので、ご都合のいい時間にお気軽にお立ち寄りください。

場所 チャイルド・ファンド・ジャパン事務所（東京都杉並区善福寺2-17-5）

ビデオで報告する支援地域

チャイルドの日常生活もご紹介します

3年前に実施した"オープンハウス"の様子

重要 『認定NPO法人』申請中です、認定され次第お知らせいたします。

『認定NPO法人』取得のための申請を昨年7月に国税庁に行い、審査が継続されています。『認定NPO法人』として認定を受けると、支援者の皆様は寄附金控除を受けることができます。認定の通知を受けましたら、皆様には直ちにお知らせいたします。同時にチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページでも告知いたします。『認定NPO法人』についてのお問合せは会計・庶務グループの吉川（03-3399-8123）までお願いいたします。

おしらせ 今年も『グローバルフェスタJAPAN』へ出展します!

『グローバルフェスタJAPAN』は毎年200以上の国際協力団体が集まる大規模なイベントです。当日は、活動内容のパネル展示やスタッフとの交流など、盛りだくさんのイベントを予定しています。ぜひ、遊びにいらしてください。

昨年出展したブースの様子

日時 2008年10月4日(土)・5日(日) 10:00～17:00

場所 東京都立日比谷公園(入場無料)

※チャイルド・ファンド・ジャパンのブース出展場所は、当日入り口で配布されるパンフレットでご確認ください。

おしらせ チャリティ・コンサート "愛は限りなく…"

六本木ルーテル教会の皆さんが、チャイルド・ファンド・ジャパンをとおして、フィリピンの子どもたちを支援するためにチャリティ・コンサートを開催してくださいます。
この秋、シャンソンやカンツォーネを聴きながら、子どもたちへ笑顔を贈ってくださいませんか?

プログラム 奥田慶子さん（シャンソン・カンツォーネ）、聖歌隊合唱、フルート演奏

日時 10月12日（日）開場13:30　開演14:00

場所 六本木ルーテル教会（東京都港区六本木6-16-44）

チケット・問合せ 前売り 1,800円　当日 2,000円
03-5382-8337（担当：大和）もしくは 03-3402-1123
※不在の場合はメッセージを残してください。

ChildFund Japan

Vision Mission

**チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン（目標）、ミッション（使命）に
基づいて活動します。**

ビジョン（目標）
**すべての子どもに
開かれた未来を約束する
国際社会の形成**

ミッション（使命）
**生かし生かされる
国際協力を通じて
子どもの権利を守る**

<チャイルド・ファンドだより SMILES（スマイルズ）>　2008年8月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長　深町正信（青山学院名誉院長）　事務局長　小林毅
TEL. 03-3399-8123　FAX. 03-3399-0730
E-mail:childfund@childfund.or.jp　URL:http://www.childfund.or.jp/

チャイルド・ファンド・アライアンス ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

デザイン:モスデザイン研究所　印刷:有限会社東西印刷